

## 理科現状の分析と授業改善プラン

### 理科における平成29年度改善プランの検証

#### <関心・意欲・態度>

興味のきっかけとなりうる実験・観察を大切にし、実物や視聴覚教材などを大切にして、理科的な経験不足を補いつつ、関心・意欲・態度を高められるような授業を実施した。

#### <科学的な思考・表現>

実験・観察等の体験を重視し、実験・観察の結果を十分検証し考察する力を育てていけるよう、授業を進めていく中で、「考える」ことのできる場面を大切にし、確保した。考察の過程で、グラフや表を用いて表現することを重視した。また、「対話的で深い学び」を目指し、観察実験の予想や考察の場面で、グループでの話し合いや、グループごとの発表など、言語活動を重視した指導を行った。

#### <実験・観察の技能>

実験・観察をできるかぎり多く行い、予想～実験・観察～考察～まとめという流れを大切にする中で、一人ひとりの実験・観察に対する技術の向上を図るため、実験・観察環境を整備しつつ、授業の手順にも留意した。小中一貫教育における理科分科会の協議で、実験器具の扱いについて議題に入れ、小学校から意識して実験観察を行うように話し合いをした。

#### <知識・理解>

今後とも高い水準を維持できるよう、重要事項の整理を大切に丁寧に行い、単元終了ごとにワークシート・問題集などを活用し、知識の確認と定着化を図った。また、レポート、小テスト、ノート点検等も確実にを行った。

### 理科における内容別結果の分析

全学年で、すべての内容項目で区平均を上回っているが、目標値との比較では、すべての内容項目について、上回っているか、または、ほぼ等しい水準にある。

### 理科の観点別結果の分析

#### <関心・意欲・態度>

区平均を上回っており、高い水準を保っているといえる。

#### <科学的な思考>

区平均を上回っており、考える力・思考力は高い。

#### <実験・観察の技能・表現>

区平均を上回っており、高い水準といえる。

#### <知識・理解>

区平均を上回っており、理科の学習に対する知識が大いに伸びているといえる。

### 理科の授業改善のポイント

- ・ 自然事象への関心・意欲・態度をさらに高める。  
→今後とも興味のきっかけとなりうる実験・観察を大切にし、実物や視聴覚教材などを大切にして、理科的な経験不足を補いつつ、関心・意欲・態度を高められるような授業を実施していく。小中一貫教育における研修会でも協議し、小学校から中学校へのスムーズな連携を図っている。1、2年次は夏の課題として自由研究を課題とし3年次は基本的知識の定着を図り苦手意識を減らすことで関心を高める。
- ・ 科学的な思考・表現をさらに高める。  
→実験や観察を授業の中で行い、その結果から考察する目や思考を養う。正しい結果や、知識に頼りすぎているため、実験や観察の結果から課題を見つけ、自分で解決できるような力を養う。
- ・ 観察実験の技能をさらに高める。  
→実験や観察を数多く行い、経験を積むことで、正しい技能を習得させる。小中一貫教育の中で、小学校理科との連携を図り、実験の技能が中学校でも生かされるような取組を行っている。ワークシートや、実験レポートなどの課題を課すことで表現力を養う。
- ・ 自然事象についての知識・理解をさらに高める。→授業内で重要事項の定着を図り、ワーク等で知識定着の確認を行う。小テストを行い、補習授業を行う。